

富山県小矢部市

平成19年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

2008年3月

小矢部市教育委員会

例　　言

1. 本書は、2007（平成19）年度に富山県小矢部市教育委員会が、国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の概要報告書である。
2. 調査は、小矢部市教育委員会が実施した。担当は次のとおりである
　　調査事務 中井真夕（文化スポーツ課主事）
　　現地調査（試掘調査）
　　高木場万里（文化スポーツ課主任）　　養輪遺跡
　　中井真夕　　石名田木舟遺跡（宅地造成）、桜町遺跡（個人住宅建設）、
　　五社遺跡、HS-22遺跡、蟹谷条里遺跡
　　高木場万里　中井真夕　　石名田木舟遺跡（経営体育成基盤整備）
　　現地調査（工事立会）
　　高木場万里　中井真夕　　今石動城跡
　　安念幹倫（同課課長補佐）　中井真夕　　田川城跡
　　大野淳也（同課主事）　中井真夕　　桜町遺跡（送水管布設替工事）
　　現地調査（分布調査）
　　高木場万里　中井真夕　　地崎遺跡・石名田木舟遺跡
3. 調査の参加者は次のとおりである。
　　現地測量・実測、整理作業等　　福江千英里　吉田理恵
4. 現地調査の作業員は、（社）小矢部市シルバー人材センターから派遣を受けた。
5. 石名田木舟遺跡（経営体育成基盤整備）の試掘トレーン位置測量は、株太陽測地社に委託した。
6. 本書の編集・執筆は中井が担当した。
7. 土層の色調については、「新版 標準土色帳」（小山正忠・竹原秀雄編著、1967）に準じている。
8. 出土遺物及び記録資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。

目　　次

事業の概要	1
市内遺跡発掘調査等事業一覧	2
市内遺跡発掘調査等事業位置図	3
石名田木舟遺跡（宅地造成）	4
桜町遺跡	5
五社遺跡	6
蟹谷条里遺跡	7
石名田木舟遺跡（経営基盤整備事業）	8

事業の概要

19年度の概要

2007(H19)年度に小矢部市内において実施した埋蔵文化財の発掘調査等は11件である。内訳は試掘調査7件、立会調査3件、分布調査1件である。さらに開発行為の事前協議、民間・個人による小規模開発、農地転用・農業振興地域除外申請に伴う問い合わせ等が40件あまりあった。

調査の原因は開発行為別にみると、個人の住宅建設等に伴うもの、宅地造成に伴うもの、鉄塔移設に伴うもの、墓地敷地造成に伴うもの、水道管移設に伴うもの、風倒木処理に伴うもの、経営体育成基盤整備事業(ほ場整備型)に伴うもの、展望台建設に伴うものなど多様である。また、原因者は、個人5件、民間事業所3件、公共団体4件である。

このうち特筆すべきは、開発面積が大規模である経営体育成基盤整備事業において、分布調査を経て一部試掘調査を実施した件である。隣接地では能越自動車道のアクセス道建設に先立ち実施された発掘調査から、遺構・遺物が濃密に分布していることが判明している。このことから、構造物建設や田面調整はもちろんのこと、用水路の整備工事についても、十分な協議が必要となる開発である。

また、平成17年度に北陸新幹線建設に先立ち実施された分布調査で、新たにHS-22遺跡とHS-23遺跡が発見・登録されたことより、従来、埋蔵文化財包蔵地の範囲外であった地域において調査を実施する機会を得ている。

調査は、市内遺跡発掘調査等事業として国庫補助をうけて実施した。試掘調査7件のうち、遺構および遺物が発見された5件については、その概要を本書で報告し、他2件については調査一覧にのみ記した。立会調査、分布調査を実施したものについては以下に概要を記す。

立会調査

立会調査は、今石動城跡、桜町遺跡、田川城跡内において実施される開発行為に伴うものである。遺構および遺物は認められなかった。しかしながら、今石動城跡と田川城跡については、埋蔵文化財はもとより現況で確認できる削切や郭などの地形に影響を及ぼすことが危惧されることから、幾度も現地に立ち入り、開発側と協議した。

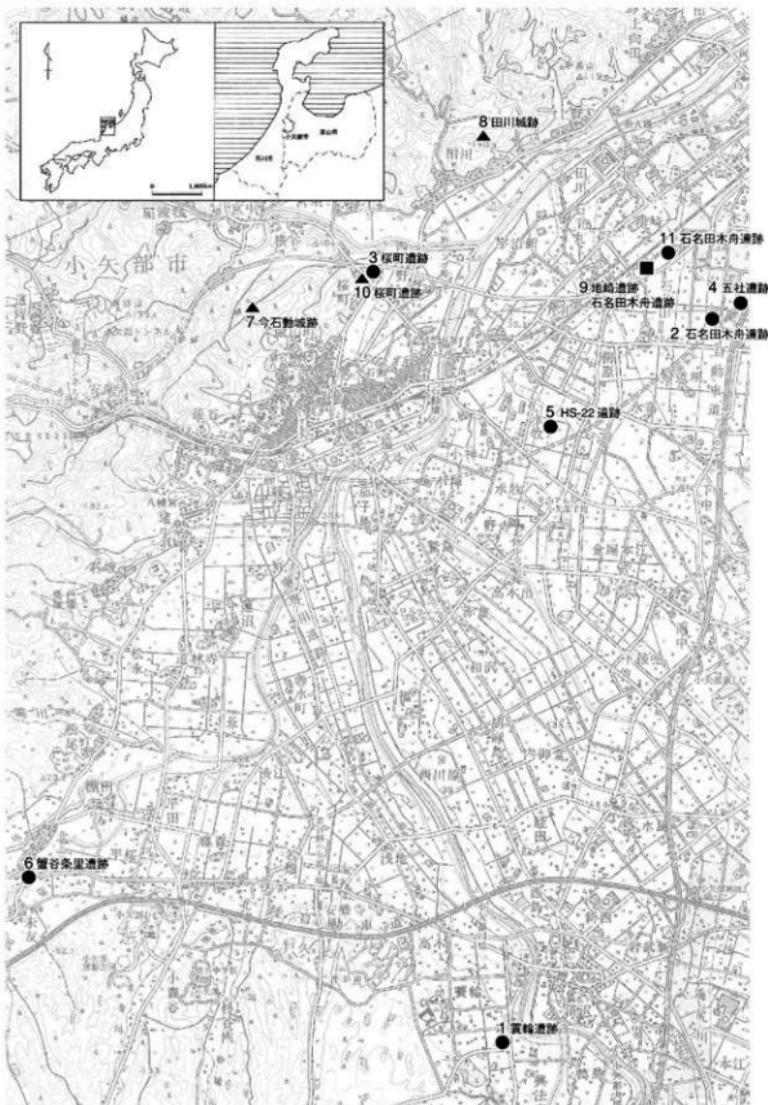
分布調査

分布調査は、基盤整備事業に伴いその事業エリア内に石名田木舟遺跡と地崎遺跡の2遺跡が含まれていることから、未踏査地区内において埋蔵文化財の有無を確認し、その保護措置を講じるため実施した。調査の結果、古墳時代、古代、中世、近世に属する遺物を採集した。その散布状況や地形から、石名田木舟遺跡の推定範囲が西へ拡大すること、さらには、北方に新たな散布地の存在を確認した。地内の状況や面積から5ヵ所の試掘調査を実施する必要が発生した。このうち今年度は1ヵ所については試掘調査を実施し、本書報告をする。

市内遺跡発掘調査等事業一覧

No	遺跡名	所在地	調査対象面積 (掘削面積)	調査種別	現地調査等 期間	調査結果	調査原因
1	賀輪遺跡	賀輪 157-1	330m ² (7m ²)	試掘調査	19.4.18	遺構確認されず。 遺物出土せず。	個人住宅建設
2	石名田木舟遺跡	五社 515-1 ほか	1,599m ² (30m ²)	試掘調査	19.4.18	遺構確認されず。 中世土器出土。	宅地造成
3	桜町遺跡	桜町字中出 ほか	761m ² (24m ²)	試掘調査	19.4.24 ~ 4.26	遺構確認されず。 土師質土器、近世 陶磁器出土。	個人住宅建設
4	五社遺跡	五社 348-2	320m ² (20m ²)	試掘調査	19.5.8 ~ 5.10	遺構確認されず。 上部質土器、近世 陶磁器出土	送電線鉄塔 移設
5	IIS-22 遺跡	水牧 85番地1 のうち	524m ² (16m ²)	試掘調査	19.7.4	遺構確認されず。 遺物出土せず。	墓地敷地造 成
6	蟹谷条里遺跡	末友 103-1 ほか	543m ² (9m ²)	試掘調査	19.7.6	遺構確認されず。 縄文土器、近世陶 磁器出土。	個人住宅建設
7	今石動城跡	上野本 26 ほか	780m ²	工事立会	19.6.10 ~ 9.15	遺物出土せず。	展望台建設
8	田川城跡	田川地内 ほか	53,000m ²	工事立会	19.9.14 ~ 10.2	遺物出土せず。	風倒木処理
9	地崎遺跡 石名田木舟遺跡	地崎地内 ほか	360,000m ²	現地確認 分布調査	19.10.3 ~ 10.25	須恵器、土師器、 珠洲、近世陶磁器、 五輪塔採取。	経営体育成 基盤整備 (は場整備)
10	桜町遺跡	中出地内 ほか	143m ²	工事立会	19.10.25 ~ 11.20	遺構確認されず。 遺物出土せず。	送水管布設 替工事
11	石名田木舟遺跡	地崎地内 ほか	36,400m ² (780m ²)	試掘調査	19.11.6 ~ 11.30	土坑、ピット、溝 確認。 縄文土器、須恵器、 上部器、中世土器、 陶磁器出土。	経営体育成 基盤整備 (は場整備)

市内遺跡発掘調査等事業位置図



● 試掘調査 ▲ 立会調査 ■ 分布調査

石名田木舟遺跡

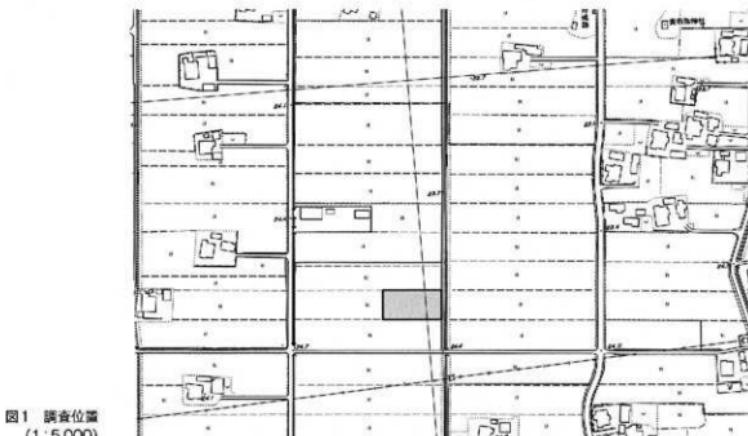


図1 調査位置
(1:5,000)

調査の概要

石名田木舟遺跡は市域の東側に位置し、市域を貫流する小矢部川と砺波平野を貫流する庄川の扇状地に立地する。高岡市福岡町木舟に所在する木舟城跡を中心に広がる遺跡である。今回の調査は宅地造成に伴うものであり、調査地は遺跡範囲の南側に位置する。現状は水田である。

現地調査は2007年(H19)年4月18日に1日間実施した。調査対象地1,599 m²に1×10m(T1・T2・T3)の3本のトレンチを設定し、重機械により掘削した。掘削面積は30 m²、最深度は1mである。基本層位はⅠ層：黒褐色シルト質ローム（水田耕作土）、Ⅱ層：灰色シルト質ローム（床土）、Ⅲ層：黄灰色砂質ローム、Ⅳ層：黒褐色砂質ローム（含有機物層）、Ⅴ層：黄灰色砂質ローム、Ⅵ層：黒色粘土質ローム（含有機質層）である。Ⅳ層以下は含有機質層と粘性が強い砂層が交互に堆積する。水が溜まる時期や植物が群生するような水が引く時期があり、湿地状態であったと考えられる。トレント3のⅡ層からは中世土師器が1点出土しているが、遺構は確認されておらず、後世に混じり込んだものと考えられる。



調査状況（東より）

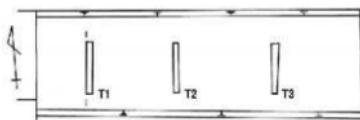


図2 調査区 (1:1,000)

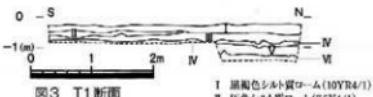


図3 T1断面

- I 黒褐色シルト質ローム(10YR4/1)
- II 灰色シルト質ローム(7.5Y4/1)
- III 黄灰色砂質ローム(2.5Y4/1)
- IV 黒褐色砂質ローム(7.5YR3/2)
- V 黄灰色砂質ローム(2.5Y5/1)
- VI 黑色粘土質ローム(10YR2/1)

桜町遺跡



図4 調査位置
(1:5,000)

調査の概要

桜町遺跡は小矢部川とその支流である子拂川が合流する西側部に位置し、段丘上から丘陵裾部に立地する。今回の調査は個人住宅兼店舗の建設に伴うものであり、調査地は遺跡範囲の西側に位置する。現状は水田である。

現地調査は2007年(H19)年4月24日～26日の3日間実施した。調査対象地761m²が三角形を呈しているため、地形に即して1×8m(T1)、1×7m(T2)、1×5m(T3)、1×4m(T4)の4本のトレチを設定し、人力により掘削した。掘削面積は24m²、最深度は1mである。基本層位はI層：褐灰色粘土質ローム(水田耕作土)、II層：褐灰色シルト質(旧耕作土)、III層：黄灰色シルト質、IV層：灰白色砂質ローム、V層：黒褐色粘土である。T2のI層とII層、T3のI層とII層、T3のII層から土師質土器片と陶磁器が少量出土しているが、遺構に伴うものではない。当該地周辺には縄文時代から近世にいたる連綿と続く重要な遺構・遺物を多数確認している。今回出土した遺物は、耕作土中からの出土であり、この周辺から混入したものであろう。



調査状況（南より）

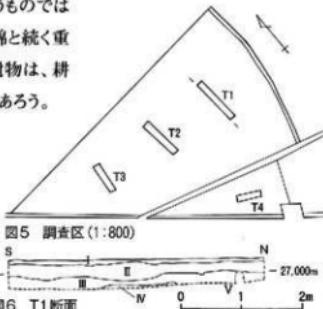


図5 調査区(1:800)
図6 T1断面

I 褐灰色粘土質ローム(10YR4/1) 水田耕作土
II 褐灰色シルト(10YR5/1)
III 黄灰色シルト(25Y4/1)
IV 灰白色砂質ローム(7.5Y5/1)

五社遺跡

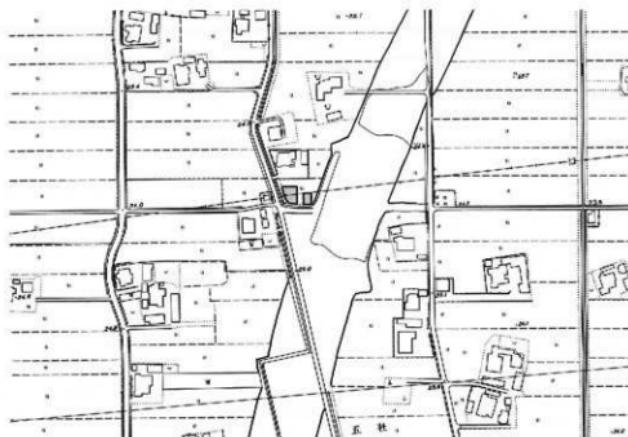


図7 調査位置
(1:5,000)

調査の概要

五社遺跡は市域の東側に位置し、小矢部川と砺波平野を貫流する庄川の扇状地に立地する。石名田木舟遺跡の更に南東に位置している。今回の調査は送電線鉄塔移設工事に伴うものであり、調査地は遺跡範囲の南側に位置する。現状は水田である。

現地調査は2007年(H19)年5月8日～10日に実施した。調査対象地320m²に1×3m(T3)、1×4m(T1・T2・T4)の3本、1×5m(T5)の計5本のトレチを設定し、人力により掘削した。掘削面積は20m²、最深度は1.2mである。基本層位はI層：黒褐色シルト質ローム（水田耕作土）、II層：黄褐色砂、III層：黄灰色砂質ローム、IV層：黒色シルト質ローム、V層：灰色砂質ローム、VI層：灰色粘質土である。T1ではIII層から上師器片が1点、T4ではI層から近世陶磁器が出土しているが、遺構は確認できなかった。当該地の東側には能越自動車道が敷設され、この建設に先立ち富山県文化振興財團による発掘調査が行われた。その結果、II層は中世包含層、III層は古代後期包含層であり、各層上面に遺構が築かれていると報告されているが、今回の調査地は遺物包含層が続くものの、遺構・遺物の分布密度が薄い場所と考えられる。



調査状況（南より）

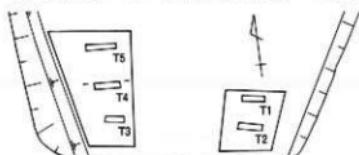


図8 調査区(1:800)

	W	E	0
図9			1m
T4断面	I	V	
	0	1	2m

1 黒褐色シルト質ローム(10YR3/1)
2 黄褐色砂(2.5Y5/4)
3 黄灰色砂質ローム(2.5Y5/1)
4 黑色シルト質ローム(2.5Y2/2)
5 棕色砂質ローム(5Y5/1)
6 黑色粘土質(5Y4/1)

蟹谷条里遺跡

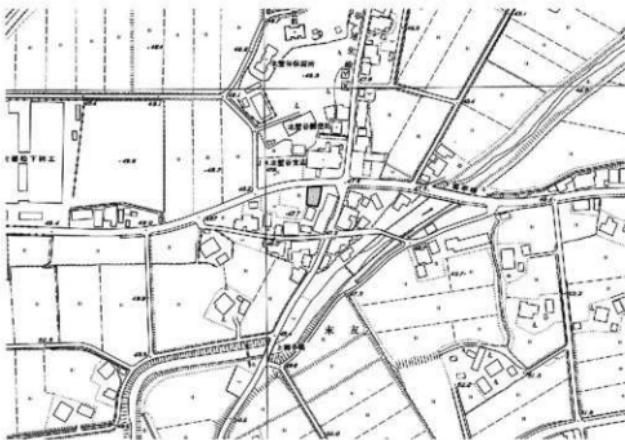


図10 調査位置
(1:5,000)

調査の概要

蟹谷条里遺跡は市域の南端部に位置し、最高199mの低い丘陵裾の河岸段丘上に立地する。今回の調査は個人住宅建設に伴うものであり、調査地は遺跡範囲の西端側に位置する。現状は畠地である。

現地調査は2007年(H19)年7月6日の1日間実施した。調査対象地543m²に1×5m(T3)、1×4m(T2)の計2本のトレンチを設定し、人力により掘削した。掘削面積は9m²、最深度は90cmである。基本層位はI層：褐灰色粘土質ローム(水田耕作土)、II層：黒褐色シルト質ローム、III層：黒褐色粘土質ロームである。II層では鉄分沈着を確認している。平成18年度には、隣接する一般国道359号に付帯する工事に伴い試掘調査を行っている。その結果、当該地に近接するトレンチでは、詳細な時期は不明であるが遺構および遺物を確認している⁶。今回の調査では、遺構は確認できなかったが、T1のI層から近世陶磁器片、T2のII層から繩文土器片が出土した。いずれも小破片で詳細な時期については判別できなかった。

⁶高木湯万里2007『平成18年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報』小矢部市教育委員会



調査状況（西南より）

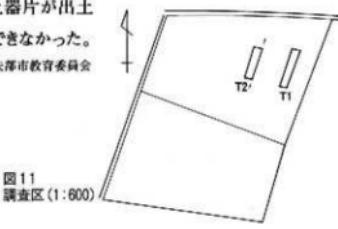


図11
調査区 (1:600)



石名田木舟遺跡



図13 調査位置
(1:5,000)

調査の概要

今回の調査地は経営基盤整備事業(は場整備型)に伴うものであり、前述した石名田木舟遺跡より北へ900m、遺跡範囲の北端部に位置する。現状は水田である。

現地調査は2007年(H19)年11月6日~30日の16日間実施した。調査対象地36,400m²に1×20m(T1)を1箇所、1×30m(T2~T18)を17箇所の計18箇所のトレンチを設定し、重機械により掘削した。掘削面積は780m²、最深度は90cmである。調査地は標高約22~23mを測り、用水路底が水田耕作面と高低差が無いもしくは逆転している箇所も数箇所認められ、雨水が溜まりやすい土地であることや、雨水の多い天候であった影響もあって軟質の泥濘状態となり、重機械はその自重で沈み、掘削よりも埋め戻し作業に日数を割いた。

遺構検出地点、遺物出土地点は開発予定地の北東に集中し広がり、現況の地形では周辺よりやや微高地である。ただし、昭和30年代に行われた圃場整備により、本来の地形は失っている。そのほか南西では遺物が少量出土したが、遺構は確認できなかった。表上以下は疊層が広がる箇所と、粘性の強い砂層が広がる箇所と線引きできる。この疊層が広がる箇所については、開発予定地の南



調査状況(東より)



調査状況(北東より)

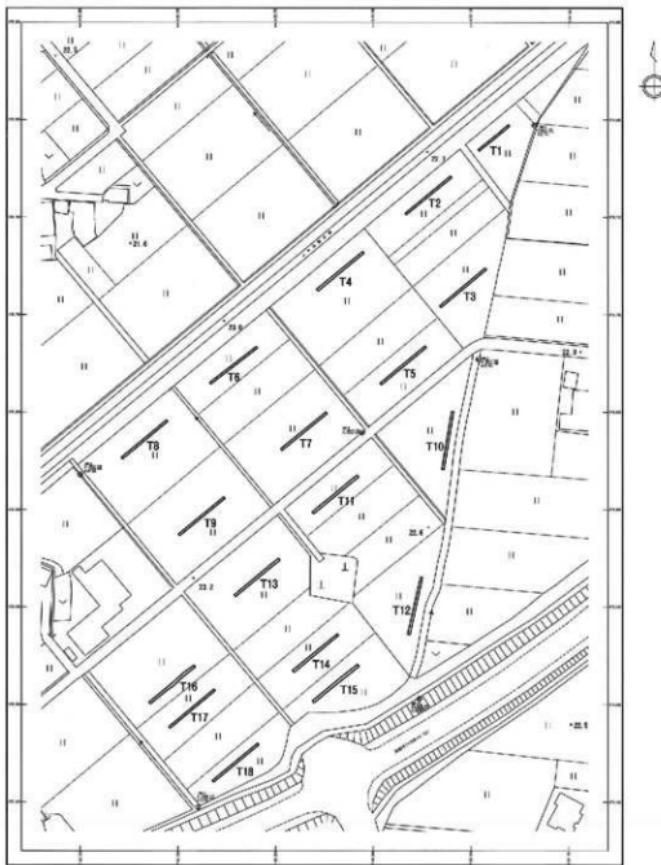


図14 調査区(1:2,500)

東に位置する能越自動車道のアクセス道建設に先立ち実施された調査結果によると、遺構・遺物が遺存する可能性が極めて高い²⁰。

※ 池野正男ほか2002『石名田木舟遺跡発掘調査報告』(財)富山県文化振興財團理成文化財調査事務所

層位

基本層位はⅠ層がオリーブ黒色粘土質ローム(厚さ20~40cm)で現水田耕作土である。

Ⅱ層は黒褐色粘土質ローム(厚さ5~20cm)で、主に古代の遺物が含まれる。調査地の北側では同色のシルト質ロームとなる。T 10においては、Ⅱ層の上層に黄灰色シルト(厚さ20cm)が部分的に層を成して残り、中世の遺物を含んでいる。Ⅲ層は灰色シルト質ローム(厚さ20~40cm)で、その上面が古代の遺構検出面である。

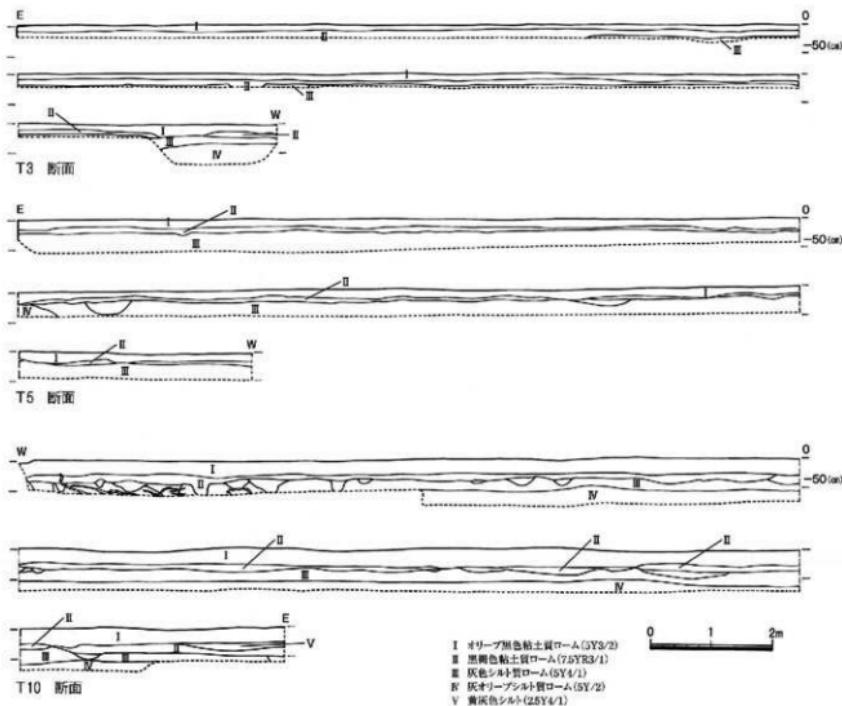


図15 T3-T5-T10断面

遺構

遺構は、表土(=耕作土)直下および遺物包含層直下において、土坑・ピット・溝を検出た。部分的に中世が遺存するトレンチ(T10)を確認したが、主に遺構は古代(後半)に帰属するものと考えられる(T1~T5、T10、T11)。なかでもT5においては、黄褐色粗砂礫層(2~15cm)の上面に遺構が築かれており、地山に存在する扇状地の砂礫層との見極めに注意を払った。

遺物

遺物は、縄文上器片、古代上器片(須恵器、上師器)、そのほか中世土師器片や珠洲、近世陶磁器が出土した。コンテナバット10箱分である。



T3 造構検出状況(東より)



T5 造構断面実測状況(南東より)



T10 造構検出状況(南より)

報 告 書 抄 錄

ふりがな	へいせいじゅうきゅうねんどおやべしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう						
書名	平成19年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報						
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第63号						
編著者名	中井真夕						
編集機関	小矢部市教育委員会						
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号						
発行年月日	西暦 2008年3月31日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	調査対象 面積 (m ²)	調査原因
石名田木舟 遺跡	小矢部市 五社515-1 ほか	16209 169	36° 40' 57" (36° 41' 08")	136° 54' 52" (136° 54' 42")	20070418	1,599	宅地造成
桜町遺跡	小矢部市 桜町字中出 ほか	16209 21	36° 41' 06" (36° 41' 17")	136° 52' 33" (136° 52' 22")	20070424 20070426	761	個人住宅 建設
五社遺跡	小矢部市 五社348-2 ほか	16209 170	36° 40' 56" (36° 41' 07")	136° 55' 08" (136° 54' 57")	20070508 20070510	320	送電線鉄 塔移設
蟹谷条里 遺跡	小矢部市 木友103-1 ほか	16209 187	36° 37' 45" (36° 37' 56")	136° 50' 14" (136° 50' 03")	20070706	543	個人住宅 建設
石名田木舟 遺跡	小矢部市 地崎地内 ほか	16209 169	36° 41' 11" (36° 41' 22")	136° 54' 36" (136° 54' 25")	20071106 20071130	36,400	経営体育 施設整備
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
石名田木舟遺跡	散布地	中世か	なし	土師質土器			
桜町遺跡	集落	古代	なし	土師質土器、近世陶器			
五社遺跡	散布地	中世か	なし	土師質土器、近世陶器			
蟹谷条里遺跡	条里		なし	绳文土器、須恵器、土師器			
石名田木舟遺跡	集落	古代・中世	土坑、ピット、溝	縄文土器、須恵器、土師器、 中世土器、珠洲、近世陶器			

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第63冊

富山県小矢部市

平成19年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発行日 2008年3月31日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 小矢部市本町1番1号

TEL 0766-67-1760

印 刷 株式会社 アヤト

